＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　メリークリスマス　２０１３　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

皆さんへ、

今年もご挨拶状の時期が参りました。今年も我々の一年の活動報告におつきあいください。

<由紀子の一年>

由紀子は、4 月に日本語教育学講座の講座主任になり、多忙な日々を送っています。広島大学の「講座」はいわゆる他大学では「学科」と呼ばれるもので、講座主任とは学科長、アメリカの大学の department chair にあたります。報告書、調査書、その他様々な書類作成や、会議など雑用に追われる毎日です。ですから、普段はあまり楽しい活動には時間を使うことが出来ません。

そんな時期に、長年行きたかったペルーに行って、インカの人々の歴史に触れたこと、パズルのような精巧な組石に触れることができたこと、クスコの幻想的な夜の雰囲気、そしてマチュピチュの街を歩き、生活を感じ、さらに山の上から見ることができたのは、最高の命の洗濯でした。それに、この歳ではちょっときついかなと思っていた高地（標高 3600m）でのハイキングは思ったより楽で、自信となりました。10 月には学会で生まれて初めてポーランドに行きましたが、現地の人たちの素朴な親切さに感銘を受けました。ベルリンからワルシャワに行く電車に乗った時は、一等席のボックスにいた会社員の男性が、荷物の上げ下ろしをしてくれ、駅から学会指定のホテルまでは、地元のご夫妻が車で連れて行ってくださいました。言葉は通じませんし、普段なら警戒するような場面でもあるのでしょうが、会う人会う人がとても親切で、そういうことを忘れさせてくれるいい経験でした。

11 月には母の一周忌は親族が宇和島に揃って無事終えました。時の早さを感じます。

12 月 2 週目には、大会委員長として 3 月から準備を始めてきた第二言語習得研究会全国大会が行われることになっており、今最後の準備に追われています。学会直後には交流協定に関する打ち合わせで、タイへ出張することになっており、12 月はぎりぎりまで忙しい毎日が続きそうです。主任の仕事は来年も続くので、正月はひっそりと休みたいと思っています。

<一味の一年>

一味の 2013 年はいつもとは少し違った年になりました。三月と四月は震災ドキュメンタリー「きょうを守る」関連の学会発表と上映会を行うことが出来ました。また、四月に行った IT 関連の学会で、キネクト（マイクロソフト社のモーションセンサー）を使った教育ゲーム開発の可能性やウィスコンシン大学が開発した ARIS という GPS ゲームを作るためのエディタについて習いました。キネクトは体を動かすことを要求し、GPS ゲームは学習者が教室外に実際に行くことになるので、どちらも従来の椅子に座ってする教室型の学習から学生を解放する今後が楽しみなテクノロジーだと考えています。ちょっと話が固くなってしまいました、ごめんなさい。今年は夏の校長の仕事を一回お休みして、五月から七月を東京で過ごしました。父親との時間を持つことが主目的でしたが、なんと五月に帰国した直後に肝心の父が尿からの感染で敗血症になり、一ヶ月ほど入院するという思わぬアクシデントがありました。幸い一命をとりとめましたが、集中治療室で生死をさまよっていた数日間はこちらも怖い思いをしました。（医者は「奇跡的」とい

う言葉を使っていたので、かなり危なかったようです。まだ寿命があったということでしょう。英語では It was not his time to go. ということになります。）現在は、幸い前の状態に近いぐらいまで体力的には回復しました。落語関連の活動は（一緒に飲み食いする機会も含めて）左龍さんとの機会が多かったです。（伊東君−高橋君−左龍さんとの焼津一泊旅行はしばらく記憶に残るでしょう。ただし旅行中の記憶は旅行中からないのですが。）五月には広島大学で留学生向けの落語会を開催することができました。（広大の高橋さん、高田さん、木村さんのスリーアミーゴが頑張りました。）普段はいない六月、七月の日本では、札幌でパデューの卒業生の三輪君を訪ねたり、高校時代の同級生とゴルフをしたりすることができました。（同級生繋がりで伊豆の海に初めて潜りました。）八月は一旦インディアナに戻り、由紀子も合流して、長年の夢だった（でもこれは由紀子の夢、海人間の一味は初めはあまり乗り気ではなかったけれど、行ってから至極感動したようです。）マチュピチュ旅行に出発しました。マチュピチュの見事さは言うまでもありませんが、いいガイドのお陰で、マチュピチュがアンデスの中に点在するインカの遺産の一つにすぎないということが分かりとても興味深かったです。(やっと頭の中でインカとインカ金星人を切り離すことができました。クスコの街の大きな教会に入った時に、もしスペイン軍が日本に来ていたら、今頃日本は大阪城の城壁の上にカトリックの教会が建っていて、街には大和民族とヨーロッパ人の混血がたくさんいるような国になっていたんだろうなどの想像してしまいました。歴史ファンタジー小説の題材になるかもしれません。）十月からは博報財団の支援で再帰国し、日本の食文化をテーマにした上級日本語の教科書を作るプロジェクトが始まりました。東京での滞在は来年三月までです。プロジェクトのために、文献を読んだり、小中学校の栄養士さんに給食のことをインタビューしたり、和食料理のお店のご主人（栗田さん）にお願いして魚の仕入れに一緒に築地に連れて行ってもらったりしています。

皆さんのご健康、ご多幸をお祈りします。よいお年をお迎えください。

2013 年 12 月

一味＆由紀子

一応言っとくけど、あたい達も相変わらず元気です。ちっとも家にいない無責任な飼い主の代わりに、夏の間は久保田姉さん、今は村松姉さんにきっちりと面倒を見てもらっています。

ちびたん＆ミータロー

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　　頌春　２０１４　　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊